

オスプレイ配備反対及び米海軍兵による集団女性暴行致傷事件に対する緊急抗議村民大会

オスプレイ配備反対読谷村民大会
米海軍兵による集団女性暴行致傷事件に対する緊急抗議
2012年10月25日



平成24年10月25日、読谷村文化センター鳳ホールにて、オスプレイ配備に反対する村民大会が開催されました。大会では、米海軍兵による集団女性暴行致傷事件に対する緊急抗議も併せて執り行なわれました。

会場の鳳ホールは、赤いTシャツや帽子、ゼッケンなどを身につけ、赤地に「NO」と書かれたプラカードを手にした村民で埋め尽くされ、立ち見も多数にのぼる約900人が参加しました。

石嶺傳實村長は、「今から17年前1995年10月21日宜野湾市の海浜公園で、県民大会が開催されました。会場は県民の米軍基地への怒りと抗議の声に包まれ、怒りの渦は全国へと広がり、日米両政府は1996年12月、世界一危険な普天間飛行場を返すと約束をしたのでありますが、約束から16年が経過した今なおその約束が反故にされており、今度も何ら占領地と変わらない沖縄の姿を、今こそ全国民が知るべきです。私は、実行委員会、読谷村民を代表して、日本全国民に申し上げたいと思います。日本の安全と平和が沖縄の基地被害の上に成り立ってはいけないという事を。日本国民が沖縄の姿に耳を傾けてくれることを心から願います。」と強く全国へ訴えました。

その後、各団体の代表が決意を述べ、読谷高校3年生の山城瑞希さんは、「沖縄の未来は私たちがつくるもの。仕方ないでは終わらせない。」と訴えました。

大会決議は、読谷村婦人会会長島袋美智子氏が提案し、本村上空で米軍がパラシュート投下したトレーラーで小学5年生の女子児童が圧死した1965年の事件に言及。オスプレイ全機の退去と普天間基地の閉鎖・撤去を要求。集団暴行事件の緊急抗議決議も読谷村青年団協議会代表の阿波根友美さんが読み上げ、被害者に対する謝罪と完全な補償を早急に行うこと、米軍人の綱紀を粛正し、米軍兵、軍属による犯罪を根絶すること、日米地位協定を見直すこと、基地の整理縮小を促進することが強く採択されました。

大会の様子は、インターネットやコミュニティラジオで県内外へ発信しました。



石嶺傳實村長



緊急抗議決議を読み上げた阿波根友美さん

アメリカ兵による住居不法侵入・傷害・器物損壊事件に対する緊急抗議村民大会

平成24年11月2日未明、読谷村古堅で発生したアメリカ兵による住居不法侵入・傷害・器物損壊事件に対する緊急抗議村民大会が11月14日、文化センター鳳ホールにて開催され、約900人が参加しました。大会には被害生徒のメッセージも寄せられ、集まった人々は被害生徒への補償や日米地位協定の抜本改定を求め、怒りの拳を突き上げました。

登壇した実行委員長の石嶺傳實村長は、「本来なら米軍と基地提供者である日本政府がこの場で謝罪すべきだ。復帰40年経過後も今なお差別を受ける沖縄県民の姿を全国民は知るべきだ。日本の安全と平和が、読谷村民と沖縄県民への過重負担と基地被害の上に成り立ってはいけない。」と強く訴えました。

新垣修幸読谷村議会議長も、「基地のない沖縄を実現するまで、村議会も闘い抜くことを誓う。」と語気を強め主張しました。

大会には、山内徳信参議院議員、糸数慶子参議院議員、仲宗根悟県議会議員も参加し、連帯の挨拶が述べられました。その後、読谷村PTA連合会代表の上地めぐみさんにより大会決議案が読み上げられ、被害者への謝罪及び完全な補償をすること、加害者の米兵を早急に日本側へ引き渡すこと、米軍兵、軍属への人権教育を徹底し、綱紀粛正を図るとともに、実効性のある再発防止策を公表すること、日米両政府は理不尽な日米地位協定を抜本的に改正すること、基地の大幅な整理縮小・撤去することが採択されました。

最後は、被害を受けた中学生からのメッセージが読み上げられ、「米兵はしっかり罪を償ってほしい。僕がこの事件で思ったのは、『悪いことをしたら、しっかり謝ること』です。」との言葉に会場は大きな拍手で包まれました。

大会では、政府要請行動への資金カンパも行われ、229,105円が集まりました。心より厚く御礼を申し上げます。大会事務局と致しましては、沖縄県実行委員会と連携を取りながら、政府に強く訴えていきたいと思っております。



怒りの拳をあげる参加者



新垣修幸読谷村議会議長



山内徳信参議院議員



仲宗根悟沖縄県議会議員



糸数慶子参議院議員